



梅雨がはじまりましたね。農業にとっては恵みの雨。晴天でも田んぼには水が張られています。雨の効果は大地を潤すだけでは留まらないようです。雨に打たれると、それに反発するようにグッと力強くなる植物。天からの刺激が稲も成長させます。不思議ですね。春先から休みがなかった私たちにとっても、梅雨はちょっと一息入れられる貴重な時間。雨が降れば、少なくとも水の心配はいりませんから、心も体も休まります。写真は、耕太がつくった「つつじの太陽」。花を集めたのは子供たちです。

ところで、田んぼではコイやアイガモたちがそれぞれ活躍中。コイ（恋）とアイガモ（愛）をかけて「恋愛農法」で作るのがおあしす米。もう少しそれぞれのご紹介をしますね。

コイは毎年 20 cm弱のコイたちが養鯉場から届きます。田植えの後、早いうちにコイを入れるのがコツ。ただ田植えした直後は、苗も根付いたかどうか怪しいところ。あんまりコイが元気だと、苗も倒されてしまいます。真ん中の写真がコイを入れた後の田んぼ。どうです、しっかり濁っているでしょう？こうして水が濁ることで雑草も生えにくくなるわけです。ところがここ数年、アオサギがごちそうをかぎつけてやって来るのでタイヘン！釣り糸を張り巡らせたり、見回りを増やしたり。しかしあちらも必死。なかなか被害を止めることができません。どうしたものかなあ。「サギ（詐欺）にやられるコイ（恋）」なんて、シャレにもなりません。愛じゃないならいいって！？いえいえ、恋も大事です。



アイガモは、届いた雛を数週間飼いならしてから田んぼに入れます。あまり小さいときに田んぼに放すと、カラスや寒さにやられてしまうからです。子供たちがせっせとエサをやったせいか今年はみるみるうちに成長。田んぼに放したら、ものすごい勢いで草を食べ始め、練習用に区切っておいた2坪くらいは半日もしないうちに草がすっかりなくなりました。移動式の小屋もできました。廃材で作ったので、材料費は格安。耕太も満足そうです。



農作業から話はそれますが、我が家の三男坊が2歳の誕生日を迎えました。前日まで「おっぱい、おっぱい」と言って甘えていたのに、「2歳になったらおっぱいはおしまいね！」と前々から私が言っていたので素直に「おっぱいバイバイ」ですって。その潔さに感動しました。すっかりお兄ちゃんになったつもりの讃太郎。時には鍬を持ち、時には一輪車で土を運び、いつも私たちにくっついては「ひほとふる（仕事する）」と言って頑張っています（笑）張り切ってお仕事した後、畦でお昼寝。気持ちよさそう！



讃太郎の誕生日に合わせて、東京から私の両親が来てくれました。もう少しで70歳のシニアではありますが、母は炊事や洗濯、父は農作業の手伝いをしてくれて、ずいぶん助かりました。朝ごはんは4合炊いてもなくなってしまう我が家の様子にびっくり。この先どうなることやら…。米農家で良かったと改めて思う今日この頃です。



そうそう、大事なことを書き忘れていました。たくさんの方から、口蹄疫の心配をさせていただいております。我が家の牛たちは、いまのところ大丈夫。先日は元気な子牛も生まれ、せっせと集めた牧草をおいしそうに食べています。牛のセリが延期になったり、畜産協会の総会が書面議決になったり、イベントが中止になったりと影響はありますが、このまま無事に終息してほしいものです。イベントの中止といえば、お誘いをしていた「アイガモ田見学ツアー」も直前に中止となってしまいました。大雨だったこともありますが、これも口蹄疫の影響を受けています。せっかく来て下さる予定にされていた方々がいらっしやいましたので、我が家では急遽ホームパーティーを開催。悪天候の中、遠くは山口県からもいらしていただき、楽しいひと時を過ごしました。



いろんなことが例年より1週間から10日位ずれ込んでいるような気がしますが、これから徐々に気温があがって、稲が順調に育ってくれることを祈るばかりです。できることは全部して、あとはお天道様まかせ。そこが工業製品と違って計算通りにいかないところですが、あと3ヶ月、稲の生命力を信じてできる限りのことをしたいと思います。

梅雨から夏にかけて、お米に虫がつきやすくなります。収穫後、保管中の消毒もしてありませんので、どうぞご注意下さい。唐辛子を米櫃に入れたり、もし可能であれば冷蔵庫に入れていただくと、発生を抑えることができます。もし虫が出てしまった場合は、ザルや新聞紙などに広げて天日干しをしていただくと、自然といなくなります。勇気を出して観察していただければ幸いです。他の食品を食べるわけでもなく、また人を刺したりするわけでもない、害のない虫です。それではどうぞ皆様、梅雨晴れの空を楽しみにしつつ、じめじめした季節を乗り切ってくださいね。W杯で寝不足にならないように！。

